

# 久納会計FAXニュース



Kunoh Accounting Office

久納公認会計士事務所

## 新年号 今年はどうな年

令和2年1月15日

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。今年はおリンピックイヤーですね。ただ、景気の先行きは徐々に厳しくなっているようです。

今年の干支は**庚子（かのえね）**です。例年通り、干支からどんな年になるかを考えてみたいと思います。

毎年の繰り返しになりますが、干支は、10年で一回りする十干（じゅっかん）と12年で一回りする十二支で構成されており、十干の方が主（干は幹に通ず）、十二支の方が従（支は枝に通ず）とされています。今年はお十干のうち、7番目の**庚（かのえ）**、十二支の最初である**子（ね）**の組み合わせとなります。

### 庚の意味

庚（かのえ）には、三つの意味があるとされています。第一は**継承・継続**。第二は**償う**。第三は**更新**。つまり、庚は前年のものを断絶することなく継続し、いろいろな罪・汚れを祓い清めて償うとともに、思い切って更新していかなくてはならないと言う意味になります。ただ、更新ですから、革命ほど断絶的なものでなく、従来の路線の上で進化させていくという意味になります（安岡正篤先生）。

また、庚の同義語として、**硬・康・魚・更**があり、共通義は「**固いシンが張っている**」とされています。庚は十干では7番目、樹木の盛衰を表すとされる十干のなかでは、一番勢いのある時期とされています。

こうしたことから、庚の年は、かなりの勢いをもって、これまでの時流がさらに進化を遂げていくという意味がありそうです。

### 子の意味

子は十二支の最初の年ですが、「**ふえる**」を意味します。子の元々の意味は「**ふえる**」ということで、身近な動物の中で最も繁殖力の強い**ネズミ**を意味するようになったようです。

十二支の子も強い繁殖力を意味し、十干の**庚**も強い推進力を意味します。こういうところから、今年はおこれまでの動きがさらに勢いを増し、突き進んでいくような年であることが予想されます。

### 過去の庚子年の出来事

それでは、過去の庚子の年を振り返ってみましょう。

まず、60年前の1960年（昭和35年）ですが、この年は日米安保条約が締結された年で、全国的なデモが発生し、学生運動も大変盛んでした。全国的な反対デモを押し切って締結したため、当時の岸首相は辞任。その後総理大臣に就任した池田首相が年末に「国民所得倍增計画」を打ち出し、本格的な高度成長期に入ります。ちなみに1960年の経済成長率は12%でした。

1960年から1970年までの10年間がいわゆる「高度成長期」と言われる時代で、この間の平均成長率は10%、平均物価上昇率は5.6%と今では考えられないような数値です。

120年前の1900年（明治33年）は、大きな出来事はありませんでしたが、日清戦争（1894年から1895年）と日露戦争（1904年から1905年）の間の時代で、工業化が進行していました。

このように60年前、120年前は、日本が経済発展を続けていた年となっています。前年からの引き続きの動きの中で、さらに加速した年で

あるように見えます。

災害の面では1960年5月にはチリ地震による津波で119人が死亡しています。1900年は大きな災害がなかったようです。60年前、120年前からは大きな災害は連想されませんが、気候変動により、台風は巨大化、風雨は強烈になっているので、油断は出来ません。

### 株式市場はどうなるか

子年は株高になるという話がありますが、12年前の子年の平成20年（2008年）にはリーマンショックが発生しています。日経平均の年間下落率はマイナス42.1%と過去最大を記録しました。ただ、この下落を含めても1950年以降の子年の平均騰落率は23.8%と十二支別のランキングでは二位になっています。ちなみに一位は辰年の28.0%、三位は亥年の16.5%です。

一方、十干別の株式騰落率では庚の年は、平均でマイナス4.1%と最下位となっています。ワースト二位は丁（ひのと）の年で、マイナス3.7%です。一番良いのは壬（みずのえ）の年でプラス27.4%、二位は己（つちのと）の25.9%となりました。

十干は10年で一回りなので、庚の年は西暦で言うと末尾が0年の年、丁の年は末尾7の年、壬は末尾2の年、己は末尾9の年となります。末尾7の年（丁）に関しては、証券業界で相場がさえないという「7の年のジンクス」というものがあるそうです。

これらの結果をどう見るかですが、干支の主は十干であることを考えると、子の影響（上昇）よりも庚の影響（下落）の方が強いかもしれません。

これまで何回も暴落がありましたが、暴落の前には必ずと言っていいほど市場が乱高下を繰り返します。乱高下は市場が不安定になっている一つの証だと思いますが、そのような兆候が現れたら、ご注意下さい。

### 人手不足

最近、どのお客様でも人手不足の話がでます。つい数年前には考えられなかった事態です。この原因は、団塊の世代（昭和22年から24年生まれ）の全員が70歳以上になりほぼ引退し、かたや新規に労働人口への参入が、少子化に伴い大幅に減ったことが大きいのではないのでしょうか。

団塊の世代の各年の出生者は260万人を超しており、この3年の合計出生者は806万人と、その比率は日本の人口構成の中でも群を抜いています。かたや新規労働人口は一年あたり120万人程度なので、労働人口からの退出と参入の差は440万人以上となっています。

こうした労働人口の減少に加え、オリンピック・耐震のための建替工事をはじめとする建設ラッシュなどにより、景気がよかったことも相まって、一気に人手不足となったと考えられます。

### 今年の当事務所の方針

こうした人手不足のため、お客さまでも経理人材が不足してきています。これに対応し、経理事務もできるだけ私どもの事務所で対応していきたいと考えています。

ネットバンキング、クレジットカードなどの電子データを活用し、最新のネットサービスも活用しながら進めていきたいと考えています。

また、6月か7月には久納会計セミナーを開催したいと思います。また、内容が決まりましたらご案内しますので、ご参加よろしくお願いたします。

また、皆様のお知り合いの方で、会社経営・事業承継・相続などでお困りの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介をお願いいたします。なお、初回の相談は無料とさせていただきます。以上

### 参考文献

安岡正篤著『干支の活学』（プレジデント社刊）  
干支歳時記（越玄さんのホームページ）  
ウィキペディア、各種年表など